

## 第7講 『咳嗽』

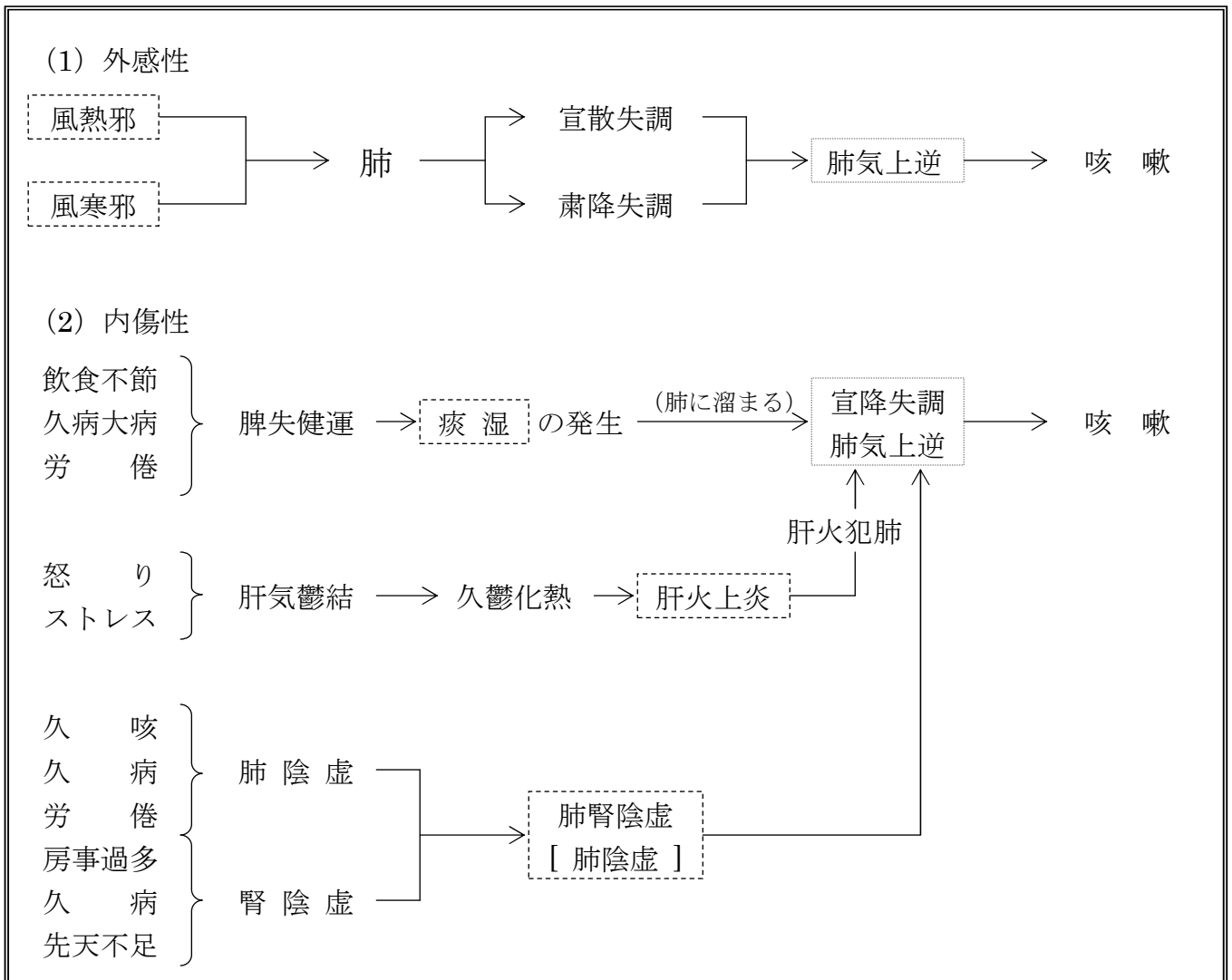
：咳嗽は肺疾患の主要症状の一つで、咳とは肺気上逆により音を立てるもの、嗽とは痰を咯出するものを指す。

咳	有声無痰	咳嗽	有声有痰
嗽	有痰無声	咳逆	有声無痰；乾咳とも呼ばれる

【分類】

- 外感性：風寒、風熱
- 内傷性
  - 実証：痰湿、肝火
  - 虚証：肺腎陰虚

### 【病因病機】



【 弁証の要点 】

(1) 外感病と内傷病

- 外感病 : 病程が短く、新病として起きる、表証の症状を伴う
- 内傷病 : 病程が長く、他の疾患から起こる、臓腑機能失調の症状を伴う

(2) 病邪の性質

\* 乾咳無痰または少痰 : 陰虚

- \* 有痰 (有咳)
  - 少痰
    - 質が薄く白い : 風寒
    - 粘稠で黄色 : 風熱
    - 粘稠黄色で常に喉に痰がある感じがするが  
なかなか吐き出せない : 肝火
    - 少量の血が混じる : 肺陰虚
  - 多痰 : 粘稠で塊状の痰も含む、白あるいは灰色 : 痰湿

【 症状と処方例 】

対症選穴 (基本穴) :

	経絡	意義	取穴部位
尺沢	肺経	宣肺止咳	肘窩横紋上で上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
列缺	肺経		太淵穴の上1寸5分、動脈拍動部のやや橈側に取る

\* 肺経 11 穴には全て止咳の効果がある。その中でも特に効果の高いのが「尺沢」「列缺」「経渠」で急性発作期の咳嗽や喘息には「孔最」や「魚際」が用いられる。

1. 風寒

[症状] 咳嗽、喉の痒み痰質は薄く白い。鼻淵、質の薄い鼻汁、頭痛、四肢のだるさ、悪寒発熱、無汗、脈浮緊。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
列缺	肺経	宣肺止咳	太淵穴の上1寸5分、動脈拍動部のやや橈側に取る
肺俞	膀胱経		第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分に取る
外関	三焦経	発汗解表	陽池穴の上2寸、総指伸筋腱と小指伸筋腱の間を取る
合谷	大腸経		第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る

## 2. 風熱

[症状] 咳嗽は多く比較的激しい、息が粗く声がかすれる、喉は乾き痛い、痰は粘稠で黄色く吐き出しにくい。鼻淵、黄色の鼻汁、口渇、頭痛、四肢のだるさ、発熱悪寒、舌苔薄黄、脈浮数。

## [処方例]

	経絡	意義	取穴部位
尺沢	肺経	宣肺清熱止咳	肘窩横紋上で上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
肺兪	膀胱経		第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分を取る
曲池	大腸経	疏風清熱	肘を屈曲してできる肘窩横紋の外方で、上腕骨外側上顆の前
大椎	督脈		第7頸椎・第1胸椎棘突起間

## 3. 痰湿

[症状] 咳嗽の音は低く濁っている、起床後に特に咳き込む、痰は多く粘っており塊状になっているものもあり色は白か灰色、痰を喀出すると咳も軽減する。倦怠感、全身の重だるさ、腹部膨満、食欲不振、舌苔白膩、脈濡滑。

## [処方例]

	経絡	意義	取穴部位
肺兪	膀胱経	宣肺止咳	第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分を取る
太淵	肺経		手関節前面横紋の橈側端の陥凹部、動脈拍動部を取る
脾兪	膀胱経	健脾化痰	第11・第12胸椎棘突起間の外1寸5分を取る
太白	脾経		足の第1中足指節関節の後、内側陥凹部を取る
豊隆	胃経	行気津布 祛痰	外果の上8寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部を取る。
合谷	大腸経		第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中指骨より取る

## 4. 肝火

[症状] 咳嗽、痰は少なく粘る、咳をすると胸脇部が痛む、顔面紅潮、咽頭部の乾き、口苦、舌質紅、苔薄黄、脈弦数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
肺俞	膀胱経	宣肺止咳	第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分を取る
尺沢	肺経		肘窩横紋上で上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
魚際	肺経	清肺熱	第1中手指節関節の上、橈側陥凹部、表裏の肌目
行间	肝経	清肝火熱	足背、第1中足指節関節の前、外側陥凹部
太衝	肝経		足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部を取る

## 5. 肺腎陰虚

[症状] 乾咳、痰に血が混じる、咯血する。潮熱、盗汗、五心煩熱、不眠、腰膝がだるく力が入らない、舌質紅、苔少、脈細数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
肺俞	膀胱経	補肺滋陰	第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分を取る
膏肓俞	膀胱経		第4・5胸椎棘突起間の外3寸を取る
尺沢	肺経	宣肺止咳	肘窩横紋上で上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
腎俞	膀胱経	補腎滋陰	第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
照海	腎経		内果の直下1寸を取る